文献目録
英語

英文法

秋元実治(編)(2001)『文法化：研究と課題』英潮社
—2000 年 5 月に立教大学で行われた日本英文学会第 72 回シンポジウム『文法化(Grammaticalization)をめぐって』の発表原稿を基に関連する論文数編を加えて編まれたもの。

秋元実治，保坂道雄(共編)(2005)『文法化；新たな展開』英潮社
—歴史語用論・分散形態論における文法化や適応的言語進化と文法化との関連などを扱う。

秋元実治(2014)『増補 文法化とイディオム化』ひつじ書房
—文法化とイディオム化に関して、そのメカニズムや要因、分析例など多様な内容を扱った本。

浅川照夫，鎌田精三郎(1986)『助動詞』(新英文法選書 4)大修館書店
—助動詞の統語的側面を実例を挙げつつ解きほぐし、意味の面の具体的な問題に手掛かりを提供する本。

荒木一雄，安井稔(編)(1992)『現代英文法辞典』三省堂
—伝統文法の枠組みを尊重した、20 世紀の英文法研究の成果の集大成。

安藤貞雄(2005)『現代英文法講義』開拓社
—様々な英文法における項目を豊富な例文・理論的視座とともに解説する。常に手元に置き疑問が浮かぶごとに参照できる。

安藤貞雄(2007)『英文法を探る』(開拓社叢書 18) 開拓社
—特異な構文の語法や複数の英語学のトピックを扱う。伝統文法・認知意味論・生成文法など複数の理論的視座を含む。

安藤貞雄(2008)『英語の文型』(開拓社 言語・文化選書 3) 開拓社
—8 文型を提唱し、英語における基本文型と、変形が加えられた派生文法を扱う。

安藤貞雄(2012)『英語の前置詞』(開拓社 言語・文化選書 31) 開拓社
—細分化された前置詞の意味を直感的な、単一の中核的意味にまとめることを試みた本。

安藤貞雄(2021)『新装版 基礎と完成 新英文法』(一歩進める英語学習・研究ブックス) 開拓社
—1984 年初版の新装復刻版。平易で詳細な解説とともに「考える英文法」の視座について扱う。

アンドリュー・ラッドフォード(2020)『英語構文を分析する（上)』金子義明，島越郎(訳) 開拓社
—最新の極小主義の解説を含み、文法・語・構造・ゼロ構成素や文法の研究手法などを

扱った本。
アンドリュー・ラッドフォード(2020)『英語構文を分析する（下)』開拓社
池上嘉彦(1991)『〈英文法〉を考える』筑摩書房
池内正幸(1985)『名詞句の限定表現』(新英文法選書 6)大修館書店
—冠詞・指示詞・数量詞に関して、その使い方や意味などを新たな視座から解説したもの。
石田秀雄(2002)『英語冠詞講義』大修館書店
—冠詞とは何か、可算・不可算の使い分け、定・不定の使い分けなどを平易に解説した本。
市河三喜(1949)『英文法研究』研究社
伊藤健三，廣瀬和清(1999)『大学生のための現代英文法』
—英文法における基本項目を網羅し、特殊構文の章では音声の仕組みについても扱う。
稲田俊明(1989)『補文の構造』(新英文選書 3)大修館書店
—自動詞補文・他動詞補文、形容詞句補文や名詞句補文など、様々な補文に関する項目を仔細に解説したもの。
今井隆夫(2019)『実例とイメージで学ぶ感覚英文法・語法講義』(一歩進める英語学習・研究ブックス）開拓社
—カテゴリー化としての英文法・表現法や日本人英語学習者が陥りやすい間違いなどを扱った文法書。
岩田彩志(2012)『英語の仕組みと文法のからくり』(開拓社 言語・文化選書 34）開拓社
—構文分析の「公式」を想定し、その例外に着目して様々なタイプの構文の解説をする本。
上田明子(2018)『イメージ感覚で捉える 英語の前置詞』(一歩進める英語学習・研究ブックス）開拓社
—個々の前置詞をその基本的意味や頻度などの特性によって分類したのち、それぞれ詳細に解説をしたもの。
江川泰一郎(1991)『英文法解説』金子書房
—英文法における項目を、豊富な例文とともに余すことなく網羅した本。練習問題とその解答まで掲載されている。
江川泰一郎(2014)『英文法の基礎』研究社
—『英文法解説』よりも平易に解説された、これから英文法を本格的に学ぼうとする人へ向けた入門書。
太田朗(1980)『否定の意味：意味論序説』大修館書店
—否定というものに関して、統語論・意味論・論理学・会話の含意・発話行為など、多角的な視座から分析を試みた本。
太田朗，池谷彰，村田勇三郎(1972)『文法論Ⅰ』(英語学体系 3)大修館書店
—伝統文法の枠組みを解説したのち、現代英語の個人的・時代的・地理的・社会的差異

や言語使用粋などの枠組みを概観する本。
太田朗，梶田優(1974)『文法論Ⅱ』(英語学体系 4)大修館書店
太田朗，梶田優(1990)『照応と削除』(新英文法選書 11)大修館書店
—照応に関する問題を、名詞照応・文照応・述部類照応に大分類し、それぞれ解説したもの。
大西泰斗，ポール・マクベイ(2018)『ハートで感じる英文法 決定版』NHK 出版
—進行形・現在完了、不定詞、冠詞などの文法事項をイメージを伴って、直感的に捉えることを目標にした英文法書。
大庭幸男(2011)『英語構文を探求する』(開拓社 言語・文化選書 23) 開拓社
—主に中間構文・結果構文・二重目的語構文・小節構文を取り上げ、それぞれの注目に値する事象に関して議論した本。
岡田伸夫(1985)『副詞と挿入文』(新英文法選書 9)大修館書店
—副詞の機能・形態・位置・作用粋や不接辞や離接辞、合接辞などの修飾について扱った本。
影山太郎(編)(2001)『日英対象・動詞の意味と構文』大修館書店
—日本語と英語の構文の論理や仕組みなどを、二重目的語構文や結果構文などを取り上げつつ対照的に解説する。
柏野健次(1999)『テンスとアスペクトの語法』(開拓社叢書 9) 開拓社
—テンスでは現在時制・過去時制・未来時表現を、アスペクトでは進行形・完了形を章立てし、それぞれの意味や用法を比較しつつ詳細に解説する本。
柏野健次，吉岡潤子(2004)『エレメンタリー英文法』開拓社
—文法解説は基礎的なものを広く扱いつつ、練習問題も掲載されている英文法書。
柏野健次(2011)『英語語法ライブラリ-ペーパーバックが教えてくれた-』(開拓社 言語・文化選書 24) 開拓社
—語法・文法編，口語英語編，文化比較編の 3 章立てで、実例と解説がセットになったもの。
加藤泰彦，吉村あき子，今仁生美(編)(2010)『否定と言語理論』開拓社
—「否定」に関して、統語論・意味論・語用論・談話分析などのアプローチから作用粋や極性などの様々な問題の分析を試みる
金水敏，今仁生美(2000)『意味と文脈』(現代言語学 4)岩波書店
—意味研究の成果を、語用論・認知言語学のアプローチによって解説したもの。
金子義明(2009)『英語助動詞システムの諸相』開拓社
—生成文法による分析に基づき、時制や一致、助動詞や条件節についての諸問題を解説したもの。
神尾昭雄(1990)『情報のなわ張り理論-言語の機能的分析』大修館書店
川村健治(2020)『日本語で理解する英文法』東京：明日香出版社
—日本語ではどのように言うかということから出発し、英語の論理や文法への転換を図

るという新たな試みの文法書。

川村健治(2021)『英語表現をマスター！時制の公式』（一歩進める英語学習・研究ブックス）開拓社

—「～する」・「～します」や「～している」・「～しています」などの日本語表現に対応する英訳は現在形を使うのか、進行形を使うのかなど、和文英訳という観点から英語の時制のシステムについて解説しなおした英文法書。

木原研三(1955)『呼応・話法』研究社

久野暲，高見健一(2013)『謎解きの英文法 省略と倒置』くろしお出版

—シリーズ謎解きの英文法の省略・倒置編。命令文や主語のない定動詞句文、接続詞の反復、There 構文などについて扱う。

クリストファー・バーナード(2013)『句動詞の底力』開拓社

河野継代(2012)『英語の関係節』（開拓社叢書 21）開拓社

小西友七(1970)『現代英語の文法と語法』大修館書店

—文法研究・語法研究・シノニム研究の 3 章に分かれ、それぞれ実例に即した仕組みの解説がされている本。生成文法的分析も一部扱っている。

小西友七(1976)『英語の前置詞』大修館書店

小西友七(2016)『英語のしくみがわかる基本動詞 24：新装版』研究社

—get, have, take, do など英語を学ぶ上で必須の基本動詞の中核的意味を捉えることを目的として解説した本。

斎藤武生，原口庄輔，鈴木英一(1995)『英文法への誘い』（開拓社叢書 2）開拓社

—音声・音韻、形態、統語、意味論・語用論や構文論など、文法の各部門を網羅し、多角的な視点から文法解説をした本。

佐藤良明(2022)『英文法を哲学する』アルク

—英語の考え方や論理について、文型や時制を取り上げつつ、あえて日本語との差異を強調して書かれた文法書。

佐藤芳明(2009)『レキシカル・グラマーへの招待』（開拓社 言語・文化選書 9）開拓社

—give, have などの基本的動詞のコア・イメージを基に使役構文などの特定の構文の解説をした、英語学習者と英語教師必携の本。

澤田治美，高見健一(編)(2010)『ことばの意味と使用：日英語のダイナミズム』鳳書房

嶋越郎(2015)『省略現象と文法理論』開拓社

—省略文に関する先行研究やコピーと削除、省略文に課せられる同一性条件など、省略現象に関する様々なトピックを紹介・解説した本。

嶋田裕司(1985)『句動詞』(新英文法選書 5)大修館書店

水光雅則(1985)『文法と発音』(新英文法選書 1)大修館書店

関茂樹(2001)『英語指定文の構造と意味』開拓社

—分裂文における指定の重層性や転移化・焦点化、複合的指定文や不定詞節を含む指定文など、指定に関するトピックを多数分析した本。

鷹家秀史，林龍次郎(2004)『生きた英文法・語法』旺文社
高野裕二他(2021)『移動現象を巡る諸問題』開拓社
高見健一(2011)『受身と使役 その意味規則を探る』開拓社
高見健一，久野暲(2002)『日英語の自動詞構文』研究社
田川憲二郎(2020)『時制とアスペクトの仕組みを明確にする 学習英文法のフォーマット』（一歩進める英語学習・研究ブックス）開拓社
—文の構造を主語動詞のペアであるネクサスと時制との関わりを通して分析し、更に意味と語法に関しても譲歩や意志の主体、メトニミー、類像性など多様な項目を取り上げ解説したもの。
武田修一(編)(1988)『現代英語の文法現象』神奈川：オセアニア出版社
—法助動詞や不定詞、動詞、代名詞などに関する具体的な文法現象を多くの例文や実験結果とともに紹介した本。
田子内健一，足立公也(2005)『右方移動と焦点化』研究社
田子内健介(2020)『英米の文法書に学ぶ英文法基礎論』開拓社
—生成文法・機能文法・論理的意味論・談話語用論・第二言語習得など複数の理論的視座を含みつつ、英語母語話者に向けて書かれた英文法書の内容を日本人学習者に向けた形で解説したもの。
立石浩一，小泉政利(2001)『文の構造』研究社
田中茂範(2013)『表現英文法』東京：コスモピア株式会社
—単語のイメージに関する図やイラストを多数掲載し、文法の細かいニュアンスの違いまで丁寧に説明されている文法書。
デ・シェン，ブレント(1997)『英文法の新発見』研究社
デイヴィット・クリスタル(2020)『英文法には「意味」がある』大修館書店
デイヴィット・セイン，古正佳緒里(2016)『ネイティブが教える英語の時制の使い分け』研究社
—集める(assemble, accumulate, collect, gather)など、類似した意味になる英語の動詞の使い分けを、ネイティブの感覚に基づいて解説したもの。
友繁義典(2016)『英語の意味を極める 1』（一歩進める英語学習・研究ブックス）開拓社
友繁義典(2016)『英語の意味を極める 2』（一歩進める英語学習・研究ブックス）開拓社
豊田一男(2015)『ジョークで楽しむ英文法再入門』開拓社
—
千葉修司(2013)『英語の仮定法 仮定法現在を中心に』(開拓社叢書 23)開拓社
—仮定法現在に関する現代英語の使用状況や、その歴史的背景などを言語学的に細かく分析・研究した本。
千葉修司(2018)『英語の時制の一致』（開拓社叢書 32）開拓社
千葉修司(2019)『英語 tough 構文の研究』開拓社
—欽定訳聖書や Shakespeare による作品、イェスペルセンの Poutsma に加え古英語・現代英語における実例など、多くのデータを通して tough 構文の特徴を分析した本。

千葉修司(2021)『英文を正しく理解するための学習英文法のコツ』(一歩進める英語学習・研究ブックス) 開拓社
坪本篤朗, 早瀬尚子, 和田尚明(編)(2009)『内と外の言語学』開拓社
中右実(2018)『英文法の心理』開拓社
—文法の論理やしくみと、現実をどのように切り分けるかということの関連について、主体と道具などの関係性を分析しつつ解説する。
中尾祐治, 天野政千代(1994)『助動詞 Do：起源・発達・機能』英潮社
中尾俊夫, 児馬修(編)(1990)『歴史的にさぐる現代の英文法』大修館書店
中川右也(2010)『教室英文法の謎を探る』開拓社
中島平三(2017)『斜めからの学校英文法』(開拓社 言語・文化選書 70) 開拓社
—文型・動名詞・分詞や不定詞などの文法項目の中でも学校英文法において例外とされているものや暗記で片付けられている仕組みに対する論理的な解説を試みた本。
中野清治(2014)『英語の法助動詞』(開拓社 言語・文化選書 49) 開拓社
中野弘三(1993)『英語法助動詞の意味論』英潮社
中村捷(2009)『実例解説英文法』開拓社
中村良夫(2020)『大学で英語を教える父が高校生の娘に贈るプレミアムな英文法・熟語』(一歩進める英語学習・研究ブックス) 開拓社
—高校英文法から大学の英語への橋渡しとなる、文法現象の解説に加え根拠や理由まで詳細に掲載されている新しい英文法書。
長原幸雄(1990)『関係節』(新英文法選書 7)大修館書店
西垣内泰介(1999)『論理構造と文法理論-日英語の WH 現象』(日英語対照研究シリーズ 7)くろしお出版
野村益寛(2020)『英文法の考え方』(開拓社 言語・文化選書 87) 開拓社
畠山雄二(2006)『言語学の専門家が教える新しい英文法』東京：ベレ出版
—理論言語学上で非文と分析される文は何がダメなのかということや、英文法における「なぜ？」に対して理解の手掛かりを提供する本。
濱田英人(2019)『脳のしくみが解れば英語が見える』(一歩進める英語学習・研究ブックス) 開拓社
原口庄輔, 今西典子(編)(2001)『文法 II』(英語学文献解題 5)研究社
バート・カッペル, 和田尚明(編)(2010) *Distinctions in English Grammar.* 開拓社
福村虎治郎(1965)『英語態(voice)の研究』北海道：北星堂書店
保坂道雄(2014)『文法化する英語』開拓社
—昔の英語にはなかった冠詞や形式主語、助動詞や完了形などの文法項目がどのように現れ、現在の形になったのかを文法化の観点から分析した本。
細江逸記(1932)『動詞時制の研究』篠崎書林
松村瑞子(1996)『日英語の時制と相』松柏社
水谷信子(1985)『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版

宮川幸久，林龍次郎(編)(2010)『アルファ英文法』研究社
宮田一廣(1998)『日英比較 前置詞の文法』松柏社
宮田幸一(1970)『教壇の英文法』研究社
村田勇三郎(2005)『現代英語の語彙的・構文的事象』開拓社
毛利可信(1980)『橋渡し英文法』大修館書店
八木克正(1990)『文法活用の日常英語表現』英宝社
八木克正(2021)『現代高等英文法』開拓社
八木孝夫(1987)『程度表現と比較構造』(新英文法選書 7)大修館書店
安井稔(1983)『英文法総覧』開拓社
レナート・デクラーク(1994)『現代英文法総論』開拓社
綿貫陽，宮川幸久，須貝猛敏，高松尚弘(2000)『ロイヤル英文法』旺文社
綿貫陽，マーク・ピーターセン(2006)『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社
Azar, B. (1999). *Understanding and using English Grammar.* 3rd ed. Prentice Hall Regents.
Baker, M. (1988). *Incorporation: A Theory of Grammatical Function Changing.* The University Chicago Press.
—抱合の理論と現象に焦点を置き、名詞抱合や統語的動詞抱合、前置詞抱合など多様な切り口から分析する。
Binnick, I. R. (1991). *Time and the Verb.* Oxford University Press.
Broughton, G. (1990). *The Penguin English Grammar A-Z.* Penguin Books.
Brown, G. (1851). *The Grammar of English Grammar.* S & W Wood.
Bryant, M. M. (1945). *A Functional English Grammar.* Heath.
Celce-Murcia, M, & D. Larsen-Freeman. (1983). *The Grammar Book.* Heinle & Heinle.
Chalker, S. (1984). *Current English Grammar.* Macmillan.
Chalkers, S. (1990). *English Grammar Word by Word.* Longman.
Close, R. A. (1975). *A Reference Grammar for Students of English.* Longman.
Close, R. A. (1992). *A Teacher's Grammar.* Thomson Heinle.
—冠詞・数量詞・時制・法助動詞などの主要英文法項目から、命題・副詞的小詞・句動詞などの詳細な分析までを網羅した英語教師向けの文法書。
Comrie, B. (1976). *Aspect: An Introduction to the Study of Verbal Aspect and Related Problems.* CUP
—時制とアスペクトとの関りや、telic/ atelic の対立などのアスペクトの意味論的側面を一般的に解説したのち個別言語の分析をした本。
Comrie, B. (1985). *Tense.* CUP
—絶対時制・相対時制、時制と統語論の関わり、未来を表す表現における問題など、時制に関するあらゆるトピックを網羅した本。
Davidsen-Nielsen, N. (1990). *Tense and Mood in English.* Mouton De Gruyter.
Declerck, R. (1991) *A Comprehensive Descriptive Grammar of English.* Kaitakusha.

Dixon, R. M. W. (2005) *A Semantic Approach to English Grammar.* Oxford University Press.
Eastwood, J. (1994). *Oxford Guide to English Grammar.* OUP.
Eastwood, J. (2005). Oxford Learner's Grammar. OUP.
Feigenbaum, I. (1975). *The Grammar Handbook.* OUP.
Gelderen, Elly van. (2004). *Grammaticalization as Economy.* John Benjamins. Amsterdam.
Hewings, M. (2005) *Advanced Grammar in Use, 2nd ed.* Cambridge University Press.
Hornby, A. S. (1956). *Guide to Patterns and Usage in English.* Oxford University Press.
Huddleston, R. (1984). *Introduction to the Grammar of English.* Cambridge University Press.
Jespersen, O. (1924). *The Philosophy of Grammar.* George Allen & Unwin
Jespersen, O. (1927). *A Modern English Grammar on Historical Principles.* (Part 3. Syntax. Second Volume.). Allen.
Jespersen, O. (1933). *Essentials of English Grammar.* London. Allen & Unwin.
Kaplan, J. P. (1989). *English Grammar: principles and Facts.* Prentice Hall.
Leech, N. G. (1971). *Meaning and the English Verb.* Longman.
Leech, N. G., & J, Svartvik. (2002). *A Communicative Grammar of English,* 3rd ed. Longman.
Long, R. B, & D. R. Long. (1971). *The Syntax of English Grammar.* Scott, Foresman.
Macaulay, R. K. S. (1971). *Aspect in English.* University Micro-films International
Murphy, R, & W. R. Smalzer. (2009) *Grammar in Use, Intermediate,* 3rd ed. Cambridge University Press.
Narrog, H. & B, Heine. (2011). *The Oxford Handbook of Grammaticalization.* Oxford University Press.
—「文法化」という現象について、生成文法・機能文法・認知文法（用法基盤モデル）や社会言語学との関わりを通して分析し、更に言語変異や接触など、文化的問題についても解説した本。
Palmer, F. R. (1965) *A Linguistic Study of the English Verb.* Longman.
Quirk, R, & S, Greenbaum. (1973). *A University Grammar of English* Longman.
Quirk, Randolph, Greenbaum, Sidney, Geoffrey, & Svartvil, J. (1985). A Comprehensive Grammar of the English
Roberts, P. (1971). *Understanding Grammar.*Harper.
Swan, M. (2005). *Practical English Usage,* 3rd ed. Oxford University Press.
Sweet, H. (1891). A New English Grammar. (Part 1). Oxford University Press.
Taylor, J, R. (1996). *Possessives in English.* Clarendon Press.
Thomson, A. J, & A. V. Martinet. (1986) *A Practical English Grammar,* 4th ed. Oxford University Press.
Warner, A, R. (1993). *English Auxiliaries.* Cambridge University Press.

英語史

荒木一雄，宇賀治正朋(1984)『英語史ⅢA』(英語学体系 10-1)大修館書店
家入葉子(2007)『ベーシック英語史』ひつじ書房
—英語の外面史や名詞・関係代名詞の発達、語形変化、be, have, do などの動詞と分詞の関わりなど、計 15 の側面から英語の歴史を概観したもの。
宇賀治正朋(2000)『英語史』開拓社
—特に近代英語に焦点を置き、音韻論・形態論・語彙論・統語論など各部門における問題点を明らかにした本。
内田十美，家入葉子，ローレンス・スコウラップ(編)(2017) *Studies in the History of the English Language 7 Language Contact and Variation in the History of English.* 開拓社
大泉昭夫(編)(1997)『英語史・歴史英語学：文献解題書誌と文献目録書誌』研究社
大塚高信(1976)『シェイクスピアの文法』研究社
小倉美智子(2015)『変化に重点を置いた英語史』英宝社
—音・綴り・形態・統語・意味・語彙・文体のそれぞれの変化に着目して英語の歴史を概観したもの。
片身彰夫，川端朋弘，山本史歩子(2018)『英語教師のための英語史』開拓社
唐澤一友(2011)『英語のルーツ』春風社
菊池清明，唐澤一友，堀田隆一，貝塚泰幸(2008)『英語史：現代英語の特質を求めて-多文化性と国際性-』関西人文科学出版社
児馬修(1996)『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房
斎藤俊雄(1992)『英語英文学研究とコンピュータ』英潮社
斎藤俊雄(1997)『英語史研究の軌跡-フィロロジー的研究からコーパス言語学的研究へ-』英宝社
斎藤俊雄，中村純作，赤野一郎(2005)『英語コーパス言語学-基礎と応用』研究社
高橋英光(2017)『英語の命令文-神話と現実』
高橋英光(2020)『英語史を学び英語を学ぶ』くろしお出版
—2 部構成になっており、前半は古英語・中英語・初期近代英語の順番で通時的に概観し、後半では現代英語の具体的な現象から過去に遡り、ルーツを探る。
田中智之(2016)「英語史における OV 語順の消失-不定詞節を中心に」田中智之他(編)『文法変化と言語理論』119-133，開拓社
谷明信，ジェニファー・スミス(編)(2017) *Studies in the History of the English Language 6 Studies in Middle and Modern English*
寺澤盾(2013)『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店
—聖書の有名なシーンや節を各時代の英語で読み進めながら英語の変遷を概観していく本。
中尾俊夫，寺島廸子(1988)『図説英語史入門』大修館書店
中尾佳行(2004)『Chaucer の曖昧性の構造』松柏社
中島文雄(1953)『近代英語とその文体』研究社
中島文雄(1951)『英語発達史 改訂版』岩波書店

西原哲雄(2021)『ブックレット英語史概説』開拓社
橋本功(1999)『聖書の英語-旧約聖書からみた-』英潮社
橋本功(2005)『英語史入門』慶応義塾大学出版会
堀田隆一(2016)『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社
堀田隆一(2011)『英語史で解きほぐす英語の誤解 納得して英語を学ぶために』中央大学出版部
松浪有(1995)『英語の歴史』(テイクオフ英語学シリーズ 1)大修館書店
三輪信春(2018)『新たな英語史研究をめざして 詩学と記号論を視点に』開拓社
安井稔, 久保田正人(2014)『知っておきたい英語の歴史』(開拓社叢書 28) 開拓社
柳朋宏(2019)『英語の歴史をたどる旅』中部大学ブックシリーズ Acta 30. 風媒社
渡部昇一(1983)『英語の歴史』大修館

Abbott, E. A. (1869). *A Shakespearian Grammar.* Macmillan.

Algeo, J. & T, Pyles. (2005). *The Origins and Develpoment of the English Language.* 5th ed.Thomson Wadsworth.
—英語の文字と音、英語を取り巻く環境などを前提に、古英語・中英語・初期近代英語・後期近代英語や借用語について概観した本。

Allen, L. C. (1995). *Case Marking and Reanakysis: Grammatical Relations from Old to Early Modern English.* Oxford University.

Allen, L. C. (2008). *Genitive in Early English.* Oxford University Press.
—ゲルマン語・英語における所有格や所有格の類型論、また指示詞と所有の関係について論じられている本。

Baugh, Albert, C, & Thomas, C. (1993). *A History of the English Language.* 4th ed. Routledge. 5th ed. 2002.

Blake, N. F. (1996). *A History of the English Language.* Basingstoke: Macmillan.

Bradley, H. (1955). *The Making of English.* Macmillian.

Bragg, M. (2003). *The Adventure of English.* New York: Arcade.

Brinton, L. J. & L. K. Arnovick. (2006). *The English Language: A Linguistic History.* Oxford: OUP.
—言語学的分析法に基づき、言語とは何かという定義から始まり、英語の音・綴り・言語変異や各時代の英語特有の現象などを詳述した本。

Bryson, B. (1990). *Mother Tongue: The Story of the English Language.* London: Penguin.

Campbell, A. (1959). *Old English Grammar.* Clarendon Press.

Evans, B. I. (1952) *The language of Shakespeare's Plays.*Methuen.

Fennel, B. A. (2001). *A History of English: A Sociolinguistic Approach.* Malden, MA: Blackwell.

—

Gelderen, E, V. (2006). *A History of the English Language.* Amsterdam. John Benjamins.

Gelderen, Elly van. (2000). *A Hisory of English Reflective Pronouns.* John Benjamins,

Amsterdam.
Gooden, P. (2009). *The Story of English: How the English Language Conquered the World.* London: Quercus.
Horobin, S. (2016). *How English Became English: A Short History of a Global Language.* Oxford: OUP.
Jespersen, O. (1952). *Growth and structure of the English Language.* 9th ed. Oxford: Blackwell.
Krug, M, G. (2000). *Emerging English Modals.* Mouton de Gruter, New York.
Leck, A, M. (2010). *Grammaticalization Paths of Have in English.* Peter Lang. Frankfurt am Main.
Los, B. (2005). *The Rise of the To-infinitive.* Oxford university Press.
Poutsma, H. (1926) *A Grammar of Late Modern English.* (Part 2.The Parts of Speech. Section 2. The Verb and the Principles.). Noordhoff.
Smith, J. J. (1999). *Essentials of Early English.* London: Routledge.
Strang, B. M. H. (1970). *A History of English.* London: Methuen.
Toyota, J. (2008). *Diachronic Change in the English Passive.* Palgrave Macmillian, Basingstoke.

コーパス

石川慎一郎，長谷部陽一郎，住吉誠(2020)『コーパス研究の展望』開拓社
—コーパスと認知言語学的観点からの英語学や、英語語法研究・英語教育研究との関連に基づき、コーパス研究の今後をまとめた本。
小川芳樹，長野明子，菊池朗(2016)『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論』開拓社
—英語・日本語の構文変化とコーパスとの関連や、言語類型論とコーパス、言語獲得とコーパスなど、コーパスと他分野の様々な関係性を扱った本。
柏野健次，内木場努(1991)『コーパス英文法』開拓社
—豊富な例文と各節に設けられた多数の練習問題を収録した実用英文法書。
ガイ・アシュトン，ルー・バーナード(2004)『The BNC handbook: コーパス言語学への誘い』松柏社
—BNC に用いられる検索言語 SARA について詳細に解説したのち、実際の検索方法や複数の問題について解説する本。
斎藤俊雄，中村純作，赤野一郎(編)(1998)『英語コーパス言語学』研究社
—コーパスとは何かという基本的問いから始まり、コーパスに基づく語彙・文法・英語史・文体論研究や辞書編纂について議論した本。
投野由紀夫(編)(2005)『コーパス英語類語使い分け 200』小学館
—コーパスを基に編集された初めての類語辞典で、詳細な解説と生き生きとした例文が特徴的。

認知言語学

浅井良策(2018)「英語の『非意図的』結果構文について」JELS 35: 10-16
尼ケ崎あきら(1990)『ことばと身体』勁草書房
池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店
池上嘉彦, F・ウンゲラー, H・-J・シュミット(1998)『認知言語学入門』大修館書店
池田まさみ(編)(2012)『言語と思考』オーム社
石川圭一(2005)『ことばと心理：言語の認知メカニズムを探る』くろしお出版
上原聡, 熊代文子(2007)『音韻・形態のメカニズム：認知音韻・形態論のアプローチ』研究社
内田聖二(2013)『ことばを読む、心を読む：認知語用論入門』開拓社
大堀壽夫 (2002)『認知言語学』東京大学出版
大堀壽夫(2002)『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』(『シリーズ言語科学』第三巻)東京大学出版会
尾谷昌則, 二枝美津子(2011)『構文ネットワークと文法：認知文法論のアプローチ』研究社
小野尚之(編)(2007)『結果構文研究の新視点』ひつじ書房
影山太郎(2001)『動詞意味論-言語と認知の接点』くろしお出版
影山太郎(1997)「単語を超えた語形成」中右実(編)『語形成と概念構造』128-197, 研究社
影山太郎(2001)『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店
河上誓作(1996)『認知言語学の基礎』研究社
児玉一宏, 野沢元(2009)『言語習得と用法基盤モデル：認知言語習得論のアプローチ』
児玉一宏, 谷口一美, 深田智(2020)『はじめて学ぶ認知言語学：ことばの世界をイメージする 14 章』ミネルヴァ書房
崎田智子, 岡本雅史(2010)『言語運用のダイナミズム：認知語用論のアプローチ』
佐藤信夫(1992)『レトリック感覚』講談社
篠原和子, 片岡邦好(2008)『ことば・空間・身体』ひつじ書房
ジョン・R・テイラー, 瀬戸賢一(2008)『認知文法のエッセンス』大修館書店
瀬戸賢一(1995)『空間のレトリック』海鳴社
瀬戸賢一, 山添秀剛, 小田希望(2017)『解いて学ぶ認知意味論』大修館書店
瀬戸賢一, 山添秀剛, 小田希望(2017)『解いて学ぶ認知言語学の基礎』大修館書店
瀬戸賢一, 山添秀剛, 小田希望(2017)『解いて学ぶ認知構文論』大修館書店
セドリック・ブックス(2012)『言語から認知を探る：ホモ・コピナンスの心』岩波書店
高橋英光(2010)『言葉のしくみ：認知言語学のはなし』北海道大学出版会
高橋英光, 野村益寛, 森雄一, 西村義樹(2018)『認知言語学とは何か？：あの先生に聞いてみよう』くろしお出版
—認知言語学とはどんな学問か、ということについて、その起源や研究内容、語用論との関係性や今後の発展などを概観することで明らかにする本。
谷口一美(2003)『認知意味論の新展開：メタファーとメトニミー』 研究社
谷口一美(2005)『事態概念の記号化に関する認知言語学的研究』ひつじ書房

辻幸夫(2002)『認知言語学への招待』(池上嘉彦，河上誓作，山梨正明(監修)『シリーズ認知言語学入門』第一巻)大修館書店
辻幸夫(2002)『認知言語学キーワード事典』研究社
—認知言語学における用語や概念を幅広く網羅しつつ、関係諸分野との繋がりや、間接的に認知言語学の発展に寄与した他分野における考え方なども紹介した事典である。
中右実(1994)『認知意味論の原理』大修館書店
中村芳久(2004)『認知文法論Ⅱ』大修館書店
—認知文法の枠組みの中で特に構文に焦点を当て、行為連鎖と構文の関係性や結果構文、再帰中間構文や使役構文などを、その認知構造に基づき分析する。
中村芳久(2019)『認知文法研究：主観性の言語学』くろしお出版
鍋島弘治朗(2020)『認知言語学の大冒険』開拓社
西村義樹(1998)「認知文法と生成文法」『月間言語』(第 27 巻第 11 号)大修館書店
西村義樹(2002)『認知言語学Ⅰ：事象構造』(『シリーズ言語科学』第 2 巻)東京大学出版会
西村義樹(2018)『認知文法論Ⅰ』(シリーズ認知言語学入門第 4 巻) 大修館書店
—認知文法の枠組みにおける名詞の意味論や格標識、程度比較といった問題を取り上げ、分析した本。
野村益寛 (2014) 『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房
野村益寛(2020)『英文法の考え方-英語学習者のための認知英文法講義』開拓社
濱田英人(2021)『認知文法の原理』開拓社
早瀬尚子(2018)「名詞の認知文法論」西村義樹(編)『認知文法論 1』pp. 25-87，大修館書店
早瀬尚子(2002)『英語構文のカテゴリー形成』勁草書房
早瀬尚子(編)(2018)『言語の認知とコミュニケーション：意味論・語用論，認知言語学，社会言語学』開拓社
早瀬尚子，堀田優子(2005)『認知文法の新展開：カテゴリー化と用法基盤モデル』(英語学モノグラフシリーズ 19) 研究社
平見勇雄(2020)『英語の所有構文に関する考察 認知言語学的アプローチから見えてくること』ふくろう出版
深田智，仲本康一郎(2008)『概念化と意味の世界：認知意味論のアプローチ』研究社
二枝美津子(2007)『格と態の認知言語学：構文と動詞の意味』世界思想社
ベルント・ハイネ(2017)『ことばはなぜ今のような姿をしているのか』関西大学出版会
堀江薫，プラシャント・パルデシ(2009)『言語のタイポロジー：認知類型論のアプローチ』研究社
本多啓(2013)『知覚と行為の認知言語学』開拓社
松本曜(2003)『認知意味論』(シリーズ認知言語学入門第 3 巻) 大修館書店
村田純一(1995)『知覚と生活世界』東京大学出版会
籾山洋介(2002)『認知意味論のしくみ』(町田健編『シリーズ日本語のしくみを探る』5)研究社
籾山洋介(2020)『実例で学ぶ認知意味論』研究社

森雄一，高橋英光(編執筆)(2013)『認知言語学：基礎から最前線へ』くろしお出版
—認知言語学における主要項目であるカテゴリー化やメタファー、イメージ・スキーマや類像性、文法化などをそれぞれ基礎編と最前線編に分け、解説や今後の研究などについて議論した本。
森雄一，西村義樹，長谷川明香(編)(2019)『認知言語学を紡ぐ』くろしお出版
森雄一，西村義樹，長谷川明香(編)(2019)『認知言語学を拓く』くろしお出版
山鳥重，辻幸夫(2006)『心とことばの脳科学：対談』大修館書店
山梨正明(1995)『認知文法論』ひつじ書房
山梨正明(1998)「認知言語学の研究プログラム」『月間言語』(第 27 巻第 11 号)大修館書店
山梨正明(1988)『比喩と理解』認知科学選書 17. 東京大学出版会
山梨正明(2000)『認知言語学原理』くろしお出版
山梨正明(2004)『ことばの認知空間』開拓社
山梨正明(2009)『認知構文論：文法のゲシュタルト性』大修館書店
山梨正明(2019)『日・英語の発想と論理・認知モードの対照分析』開拓社
山梨正明(2021)『言語学と科学革命：認知言語学への展開』ひつじ書房
吉村公宏(1995)『認知意味論の方法：経験と動機の言語学』人文書院
吉村公宏(2003)『認知音韻・形態論』(池上嘉彦，河上誓作，山梨正明監修『シリーズ認知言語学入門』第 2 巻)大修館書店
吉村公宏(2004)『はじめての認知言語学』研究社
—認知言語学の基本的な概念や用語について比較的平易に解説されている、大学 1, 2 年生や社会人独習者に向けた入門書。
米倉よう子，山本修，浅井良策(2020)『ことばから心へ：認知の深淵』開拓社
Croft, W, & D. Cruse, A. (2004) *Cognitive Linguistics.* Cambridge University Press.
Dancygier, B, & E. Sweetser. (2005). *Mental Spaces in Grammar.*CUP.
Evans, V, & M, Green. (2006). *Cognitive linguistics: An intro-duction.* Edinburgh University Press.
Fauconnier, G. (1985). *Mental Spaces.* MIT Press. Cambridge.
Herskovits, A. (1985). *Language and Spatial Cognition: An Interdisciplinary Study of the Prepositions in English.* Cambridge University Press. Cambridge.
Jackendoff, R. (1983). *Semantics and Cognition.* MIT Press. Cambridge, MA.
Jackendoff, R. (2002). *Foundation of Language: Brain, Meaning, Grammar, Evolution.* Oxford University Press. Oxford.
—心理学・生物学的基盤、構造的基盤、意味論・概念的基盤の 3 部に分かれ、言語の複雑性や構造の問題などを詳細に分析した本。
Lakoff, G, & M, Johnson. (1980). *Metaphors We Live By.* The University of Chicago Press.
Lakoff, G. (1987). *Women, Fire, and Dangerous Things: WhatCategories Reveal about Mind.* The University of ChicagoPress.

Lakoff, G. Stative adjectives and verbs in English. *Mathematical Linguistics and Automatic Translation. Report to the National Science Foundation* 17-1, 1-17

Lakoff, R. (1972). Language in Context. *Language 48.* 907-927

Langacker, R. (2000). *Grammar and Conceptualization.* Mouton de Gruyter.

Langacker, R. (2009). *Investigations in Cognitive Grammar.* Mouton de Gruyter. Berlin.

Langacker, R. W. (1987). *Foundations of Cognitive Grammar (vol 1), Theoretical Prerequisites.* Stanford University Press.

Langacker, R. W. (1990). *Concept Image and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar.* Mouton de Gruyter.

Langacker, R. W. (2008). *Cognitive Grammar: A Basic Introduction.* Oxford University Press.

Lee, D. (2001). *Cognitive Linguistics.* Oxford university Press.

Lyons, C. (1999). *Definiteness.* CUP

Rogers, A. (1971). Three kinds of physical perception verbs.*Papers from the Regional Meeting, Chicago LinguisticsSociety 7,* 206-222

Schlesinger, I. M. (1989). *Cognitive Space and Linguistic Case: Semantic and Syntactic Categories in English.* Cambridge University Press.

Taylor, J. R. (2002). *Cognitive Grammar.* Oxford University Press.

Taylor, J. R. (2003). *Linguistic Categorization.* OxfordUniversity Press.

Taylor, J. R. (2012). *The Mental Corpus: How Language Is Represented in the Mind.* Oxford University Press. Oxford.

Tyler, A., & V, Evans. (2003). *The Semantics of English Pre-positions: Spatial Scenes, Embodied Meaning and Cognition.* Cambridge University Press.

構文文法

坪井栄治郎，早瀬尚子(2020)『認知文法と構文文法』開拓社

Fillmore, C, & P, Kay. (1995). *Construction Grammar Coursebook.* Ms., University of California. Berkeley.

Fillmore, C. J., Paul K., & M, Catherine O'Connor. (1988). Regularity and idiomaticity in grammatical constructions:
The case of let alone. *Language 64,* 501-518

生成文法

阿部潤(2016)『生成統語論入門』(開拓社叢書 26) 開拓社

アラン・プリンス・ポール・スモレンスキー(2008)『最適性理論：生成文法における制約相互作用』岩波書店

有元將剛，村杉恵子(2005)『束縛と削除』(英語学モノグラフシリーズ 12) 研究社

安藤貞雄，小野隆啓(1993)『生成文法用語辞典：チョムスキー理論の最新情報』大修館書店
池内正幸，郷路拓也(編)(2013)『生成言語研究の現在』ひつじ書房
井上和子(1976)『変形文法と日本語(下)』大修館書店
今井邦彦『チョムスキー小辞典』大修館書店
大津由紀夫(1987)『ことばからみた心：生成文法と認知文法』東京大学出版会
大津由紀雄(1997)「文法の脳科学」『心理学評論』40 巻 3 号, 267-277
大津由紀雄，池内正幸，今西典子，水光雅則(2002)(編)『言語研究入門』研究社
北川善久，上川あゆみ(2004)『生成文法の考え方』研究社
杉崎鉱司(2015)『はじめての言語獲得-普遍文法に基づくアプローチ』岩波書店
杉崎鉱司，稲田俊一郎，磯部美和（2022)『言語研究の世界-生成文法からのアプローチ』研究社
—『言語研究入門』の姉妹編。言語の脳科学など新しい視座が加えられている。
田窪行則(2004)『生成文法』岩波書店
田中伸一，阿部潤，大室剛志(2000)『入門生成言語理論』ひつじ書房
中井悟(1999)『言語学は自然科学か：生成文法の方法論』昭和堂
中井悟，上田雅信(2004)『生成文法を学ぶ人のために』世界思想社
中島平三，池内正幸(2005)『明日に架ける生成文法』（開拓社叢書 14）開拓社
中村捷，金子義明，菊池朗(1989)『生成文法の基礎：原理とパラメターのアプローチ』研究社
中村捷，金子義明，菊池朗(2001)『生成文法の新展開』研究社
ノーム・チョムスキー(2003)『生成文法の企て』岩波書店
ノーム・チョムスキー(2008)『自然と言語』研究社
長谷川信子(編)(2011)『70 年代生成文法再認識』開拓社
畠山雄二(編)(2017)『理論言語学史』開拓社
原口庄輔，中村捷，金子義明(編)(2016)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社
福井直樹(2001)『自然科学としての言語学：生成文法とは何か』
本庄巌(編)(1997)『脳から見た言語』中山書店
ポーラ・メニューク(1973)『言語習得の原型：生成文法的アプローチ』広島：文化評論出版
町田健(2000)『生成文法がわかる本：生成文法をできるあぎりやさしく解説』研究社
三原健一(1998)『生成文法と比較統語論』くろしお出版
宗正佳啓(2020)『普遍文法と言語差異』開拓社
籾江静(2012) *Function-Driven Movement.* 開拓社
安井稔『変形文法による英語の分析』（現代の英語学シリーズ 9）開拓社
由本陽子，岸本秀樹(編)(2020)『名詞をめぐる諸問題』開拓社
渡部明(2009)『生成文法』東京大学出版会
Aronoff, M. (1976). *Word Formation in Generative Grammar.* MIT Press.
Backley, P. (2011) *An Introduction to Element Theory.*
Boeckx, C. (2008). *Understanding Minimalist Syntax: Lessons from Locality in Long-Distance Dependencies.* Blackwell.

Bresnan, J. (Ed). (1982). *The Mental Representation of Grammatical Relation.* Cambridge, Mass: The MIT Press.

Carnie, A. (2021). *Syntax: A Generative Introduction,* 4th ed. Wiley-Blackwell.

Chomsky, N. (1957). *Syntactic Structures.* The Hague: Mouton.
—統語構造についてのチョムスキーの初の著作。文法の独立性、句構造やその限界、またいくつかの英語における変形を分析した本。

Chomsky, N. (1964). *Current Issues in Linguistic Theory. Mouton.*

Chomsky, N. (1965). *Aspects of the theory of syntax.* Cambridge. Mass. MIT Press.

Chomsky, N. (1968). *Language and Mind.* Harcourt Brace & World, Inc.

Chomsky, N. (1975). *Reflections on Language.* New York: Pantheon.

Chomsky, N. (1981). *Lectures on government and binding.* Foris. Dordrecht.

Chomsky, N. (1982). *Some concepts and Consequences of the Theory of Government and Binding.* MIT Press.

Chomsky, N. (1986). *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use.* Prageger.

Chomsky, N. (1986). *Barriers.* Cambridge, Mass: The MIT Press.

Chomsky, N. (1988). *Language and Problems of Knowledge.* Cambridge, Mass: The MIT Press.

Chomsky, N. (1995). *The Minimalist program.* MIT Press.

Chomsky, N. (2000). *New Horizons in the Study of Language and Mind.* Cambridge. Cambridge University Press.

Haegeman, L, & J, Gueron. (1999). *English Grammar: A Generative Perspective.* Blackwell.

Jackendoff, R. (1972). *Semantics Interpretation in Generative Grammar*. MIT.

Jackendoff, R. (1977). *X-Bar Syntax: A Study of Phrase Structure.* Cambridge. MIT Press.

Jackendoff, R. (1983). *Semantics and Cognition.* Cambridge. MIT Press.

Jackendoff, R. (1987). *Consciousness and the Computational Mind.* Cambridge. MIT Press.

Jackendoff, R. (1992). *Language of the Mind.* The MIT Press.

Jackendoff, R. (1992). *Patterns in the Mind: Language and Human Nature.* Harvester Wheatsheaf.

Jackendoff, R. (2007). *Language, Consciousness, Culture: Essays on Mental Structures (Jean Nicod Lectures)*. Cambridge. MIT Press.

Jackendoff, R. (2010). *Meaning and Lexicon.* Oxford University Press.

Jackendoff, R. (2012). *A User's Guide to Thought and Meaning.* Oxford University Press.

Radford, A. (2009). *Analyzing English Sentences.* Cambridge University Press.

Scalise, S. (1986). *Generative Morphology.* 2nd Edition. Foris, Dordrecht.

語用論

赤塚紀子，坪本篤朗(1998)『モダリティと発話行為』研究社

今井邦彦(2001)『語用論への招待』大修館書店
今井邦彦(2021)『語用論のすべて：生成文法・認知言語学との関連も含めて』開拓社
大津隆広(2013)『発話解釈の語用論』九州大学出版会
加藤重広，滝浦真人(編)(2016)『語用論研究法ガイドブック』ひつじ書房
小泉保(編)(2001)『入門語用論-理論と応用』研究社
澤田治美(2006)『モダリティ』開拓社
ジョナサン・カルペパー，マイケル・ホー(2020)『新しい語用論の世界-英語からのアプローチ』研究社
高原脩，林宅男，林礼子(2002)『プラグマティックスの新展開』勁草書房
橋内武（1999)『ディスコース―談話の織りなす世界』くろしお出版
田中茂範(1987)『基本動詞の意味論：コアとプロトタイプ』三友社
田中廣明(1998)『語法と語用論の接点』開拓社
千葉修司(2022)『エンパシー制約にみられる言語変化と語用論』（開拓社 言語・文化選書 95）開拓社
毛利可信(1980)『英語の語用論』大修館書店
安井稔(1978)『言外の意味』研究社
安井稔(1978)『新しい聞き手の文法』大修館
安武知子(2009)『コミュニケーションの英語学 話し手と聞き手の談話の世界』（開拓社 言語・文化選書）開拓社
山梨正明(1986)『発話行為』（新英文法選書 6)大修館書店
山梨正明(1992)『推論と照応』くろしお出版
Aijmer, K. (2013). *Understanding Pragmatic Markers: A Variational Pragmatic Approach.* Edinburgh University Press. Edinburgh.
Aikhenvald, A. Y. (2004). *Evidentiality.* Oxford: Oxford University Press.
Austin, J. (1962) *How to Do Things with Words,* Clarendon.
Birner, B. & G, Ward. (1998). *Information Status and Noncanonical Word Order in English.* John Benjamins, Amsterdam.
Bolinger, D. L. (1952). Entailment and the meaning of structures. *Glossa 2, 119-127*
Bolinger, D. L. (1977). *Meaning and Form.* Longman.
Dancygier, B. (1998). *Conditionals and Prediction.* CUP.
Declerck, R, & S. Reed. (2001) *Conditionals.* Mouton.
Leech, G. (1983). *Principles of Pragmatics.* Longman.
Levinson, S. C. (1983). *Pragmatics.* CUP.
Wierzbicka, A. (1991). *Cross-Cultural Pragmatics: The Semantics of Human Interactions.* Mouton de Gruyter. Berlin.

意味論

池上嘉彦(1975)『意味論 意味構造の分析と記述』大修館書店
池上嘉彦(編)(1996)『英語の意味』テイクオフ英語学シリーズ 3. 大修館書店
池上嘉彦(2006)『英語の感覚・日本語の感覚-〈ことばの意味〉のしくみ』NHK 出版
大室剛志(2017)『概念意味論の基礎』(開拓社 言語・文化選書 67)開拓社
柏野健次(1993)『意味論から見た語法』研究社
澤田治美(2018)『意味解釈の中のモダリティ(上)』(開拓社 言語・文化選書 72)開拓社
澤田治美(2018)『意味解釈の中のモダリティ(下)』(開拓社 言語・文化選書 73)開拓社
杉本孝司(1998)『意味論 2 -認知意味論』
武内道子(2015)『手続き的意味論-談話連結語の意味論と語用論』ひつじ書房
武田修一(2016)『教育英語意味論への誘い』(開拓社 言語・文化選書 60)開拓社
田中拓郎(2016)『形式意味論入門』開拓社
出水孝典(2018)『動詞の意味を分解する』(開拓社 言語・文化選書 71)開拓社
出水孝典(2019)『続・動詞の意味を分解する』(開拓社 言語・文化選書 82)開拓社
中野弘三『英語法助動詞の意味論』英潮社
萩原俊幸(2016)『「もの」の意味、「時間」の意味-記号化に頼らない形式意味論の話』くろしお出版
松本曜, 小原京子(編)(2022)『フレーム意味論の貢献』開拓社
毛利可信(1972)『意味論から見た英文法』大修館書店
由本陽子, 小野尚之(編)(2015)『語彙意味論の新たな可能性を探って』開拓社
米倉よう子(編)(2021)『意味論・語用論と言語学諸分野とのインターフェイス』(言語のインターフェイス・分野別シリーズ 4)開拓社
米山三明(2009)『意味論から見る英語の構造-移動と状態変化の表現を巡って』開拓社
Allan, K. (2001). *Natural Language Semantics.* Blackwell. Oxford.
—意味論分野における基礎的概念の概観から、含意や文と文の関係性などの個別の現象の解説、認知意味論など様々な内容を網羅した意味論の入門書。
Carnap, R. (1942). *Introduction to Semantics.* Cambridge, Mass: Harvard University Press.
Coates, J. (1983). *The Semantics of the Modal Auxiliaries.* Croom Helm.
Dixon, R. M. W. (1992). *A New Approach to English Grammar, on Semantic Principles.* Oxford: Clarendon.
Dixon, R. M. W. (2005). *A Semantics Approach to English Grammar.* Second Edition. Oxford University Press. Oxford.
Frawley, W. (1992). *Linguistic Semantics.* Lawrence Erlbaum. Hillsdale. NJ.
Freed, A. F. (1979). *The Semantics of English Aspectual Complementation.* Reidel.
Hayakawa, S. I. (1953). *Symbol, Status, and Personality.* New York: Harcourt Brace Jovanovich, Inc.
Hayakawa, S. I. (1978). *Language in Thought and Action, 4th ed.* New York: Harcourt Brace Jovanovich, Inc.

Hayakawa, S. I. (ed.). (1962). *The Use and Misuse of Language.* New York: Fewcett.
Liefrink, F. (1973). *Semantico-syntax.* Longman.
Ludlow, P. (1999). *Semantics, tense, and time.*
Lyons, J. (1977). *Semantics 1.* Cambridge University Press.
Norrick, R. N. (1981). *Semiotic Principles in semantic theory.* Amsterdam: J. Benjamins.
Parson, T. (1990). *Events in the semantics of English: A study in Subatomic semantics.* Cambridge: MIT Press.
Saeed, J, I. (1997[2009]) Semantics (3rd ed.). Blackwell Publisher Ltd.
Suzuki, N. Y. (2002). *The Semantics od the English modals: a case of multi-sensory, multi-lateral generation of meaning in communication.* Tokyo: Liber Press
Traugott, E, C. & R, B, Dasher. (2002). *Regularity in Semantics Change.* Cambridge University Press.

音声・音韻論

安倍勇(1958)『英語イントネーションの研究』研究社
安藤賢一(1988)『演習英語音声学』
成美堂
今井由美子(他)(2020)『英語音声学への扉 改訂版 発音とリスニングを中心に』英宝社
岩村圭南(2019)『改訂版 英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編)』研究社
英語音声学研究会(2003)『大人の英語発音講座』日本放送出版協会
小栗敬三(1968)『英語音声学』東京：篠崎書林
—英語音声学の基本内容を図解し、発音の練習問題を収録した入門書。アメリカ英語の発音に関する文化的・地理的なことも解説されている。
音韻論研究会(編)(1996)『音韻研究-理論と実践』開拓社
片山嘉雄(1996)『英語音声学の基礎 音変化とプロソディーを中心に』研究社
加藤重広，安藤智子(2016)『基礎から学ぶ音声学講義』
神山孝夫(2019)『脱・日本語なまり英語(＋α)実践音声学 新装版』大阪大学出版会
川越いつえ(1999)『英語の音声を科学する』大修館書店
窪薗晴夫(1995)『語形成と音韻構造』(日英語対照研究シリーズ 3)
くろしお出版
窪園晴夫(1998)『音声学・音韻論』くろしお出版
窪園晴夫，本間猛(2002)『音節とモーラ』(英語学モノグラフシリーズ 15）研究社
小泉保，牧野勤(1971)『音韻論』
後藤正次(1991)『英語音声学研究：発音と綴字』大阪教育図書
島岡丘他(編)『音声学・音韻論』(英語学文献解題 6)研究社
島岡丘，佐藤寧(1987)『最新の音声学・音韻論：現代英語を中心に』研究社
清水克正(1995)『英語音声学：理論と学習』勁草書房

清水克正(2020)『英語音声学要説』英宝社
水光雅則(1983)「英語の単語の第一強勢の位置」『人文』1-88. 京都大学教養部
水光雅則(1985)『文法と発音』(新英文法選書 1)大修館書店
菅原真理子(編)『音韻論』朝倉書店
田窪行則他(1998)『音声』(岩波講座 言語の科学 2)岩波書店
竹林滋(1996)『英語音声学』研究社
—Henry Sweet, Daniel Jones などの調音音声学を基に書かれた英語音声学解説書。調音音声学に加え、音響音声学・聴覚音声学の解説一部盛り込まれている。
竹林滋, 清水あつ子, 斎藤弘子(2013)『初級英語音声学 改訂新版』大修館書店
田中伸一(2005)『アクセントとリズム』(英語学モノグラフシリーズ 14) 研究社
田中伸一(2009)『日常言語に潜む音法則の世界』開拓社
伊達民和(2019)『教室の音声学読本 英語のイントネーションの理解に向けて』大阪教育出版
都田青子, 田中真一(編)(2021)『音声学・音韻論と言語学諸分野とのインターフェイス』(言語のインターフェイス・分野別シリーズ 2) 開拓社
西原哲雄(2012)『現代音声学・音韻論の視点』(叢書英語音声学シリーズ第 6 巻) 金星社
根間弘海(1996)『英語の発音とリズム』開拓社
根間弘海(2003)『発音とリズムをマスターする英語音声学』英宝社
服部範子(2012)『入門英語音声学』研究社
服部義弘(編)(2012)『音声学』(朝倉日英対照言語学シリーズ) 朝倉書店
フィリップ・カー(2021)『英語音声学・音韻論入門 新版』研究社
牧野武彦(2005)『日本人のための英語音声学レッスン』大修館書店
御園和夫(1995)『英語音声学研究：理論と応用』東京, 和弘出版
南比佐夫(2015)『音声英語の諸相』近代文藝社
安井泉 (1992)『音声学』(現代の英語学シリーズ 2) 開拓社
原口庄輔(1994)『音韻論』(現代の英語学シリーズ 3) 開拓社
山根繁(2019)『コミュニケーションのための英語音声学研究』関西大学出版部
米倉綽, 島村礼子, 西原哲雄(2019)『英語の語の仕組みと音韻の関係』(開拓社言語・文化選書 80) 開拓社
—語・形態・レキシコンや後期中英語における名詞派生接辞の形態について扱ったのち、複合語の強勢などの音韻的問題を取り上げる。
Collins, B., & I, M. Mees. (2009). *Practical Phonetics and Phonology: A Resource Book for Students, 2nd ed.* New York: Routledge.
Crystal, D. (1980). *A First Dictionary of Linguistics and Phonetics.* Andre Deutsch.
Fudge, E. (1984). *English Word Stress.* George Allen & Unwin. London.
Jenkins, J. (2000). *The Phonology of English as an International Language.* Oxford University Press.
Jones, D. (1960). *An Outline of English Phonetics.* W Helfer & Sons LTD. Cambridge.

Jones, D. (1987). *The Pronunciation of English.* Cambridge University Press.
O'Connor, J. D., & G. F. Arnold. (1980). *Intonation of Colloquial English.* Longman.
Roach, P. (2000). *English Phonetics and Phonology.* Cambridge University Press.
Wells, J. C. (1982). *Accents of English.* Cambridge University Press.

形態論

上野景福(1955)『語形成』(英文法シリーズ 25) 研究社
島村礼子(1990)『英語の語形成とその生産性』東京：リーベル出版
寺澤芳雄，竹林滋(編)(1988)『英語語彙の諸相』研究社
西川盛雄(2006)『英語接辞研究』開拓社
西川盛雄(2013)『英語接辞の魅力』(開拓社 言語・文化選書 39) 開拓社
西原哲雄，田中真一(2015)『現代の形態論と音声学・音韻論の視点と論点』(開拓社叢書 25) 開拓社
西山國雄，長野明子(2020)『形態論とレキシコン』開拓社
本間猛，岡崎正男，田畑敏幸，田中伸一(編)(2003) *A New Century of Phonology and Phonological Theory.* 開拓社
山田英二(2010) *Subsidiary Stresses in English.* 開拓社
由本陽子，岸本秀樹(編)(2009)『語彙の意味と文法』くろしお出版
Adams, V. (1973). *An Introduction to Modern English Word-Formation.* Longman.
Allen. (1978). *Morphological Investigations.* Doctoral dissertation. University od Conneticut.
Anderson, R. S. (1992). *A Morphous-Morphology.* Cambridge University Press.
Aronoff, M. & K, Fudeman. (2005). *What is Morphology?* Blackwell, Oxford.
Austin, J. L. (1962). *How to Do with Words.* Clarendon Press. Oxford.
Bauer, L. (1983). *English Word-formation.* Cambridge University Press.
Bauer, L., R. Lieber and I. Plag (2013). *The Oxford Reference Guide to English Morphology.* OUP.
Booij, G. (2005). *The Grammar of Words.* Oxford University Press.
Booji, G. (2010). *Construction Morphology.* Oxford UP: Oxford University Press.
Coates, R. (1999). *Word Structure.* Routledge, London.
Denning, K. & W, R, Leben. (1995). *English Vocabulary Elements.* Oxford University Press.
Pinker, S. (1999). *Words and Rules.* A Phoenix Paperback. Phoenix.
Plag, I. (2003). *Wor-Formation in English.* Cambridge University Press.
Siegel, D. (1974). *Topics in English Morphology.* Doctoral dissertation. MIT.
Sinclaire, J. (1991). *Word Formation.* Collins COBUILD English Guides. Paper-Collins.
Spencer, A. (1991). *Morphological Theory.* Basil Blackwell. Oxford.
Sproat, R. (1992). *Morphology and Computation.* MIT Press. Cambridge. MA.

統語論

丁一楽, 江口清子, 木戸康人, 眞野美穂(編)(2020)『統語構造と語彙の多角的研究』開拓社
—文構造や語彙とその周辺現象についての日本語・英語・中国語・ハンガリー語・インド諸語を対象とした研究を多数掲載した本。

中村浩一郎(編)(2021)『統語論と言語学諸分野とのインターフェイス』(言語のインターフェイス・分野別シリーズ 1)開拓社

畠山雄二(2013)『書評から学ぶ 理論言語学の最先端(下)』開拓社

安井稔(1987)『統語論』(現代の英語学シリーズ 5)開拓社

Baker, C. (1991). *English Syntax.* MIT Press.

Berk, L, M. (1999). *English Syntax: From Word to Discourse.* OUP

Berwick, R, C. (1985). *The Acquisition of Syntactic Knowledge.* MIT Press

Bryant, M. M, & C. Momozawa. (1976). *Modern English Syntax.* Seibido.

Chafe, W. L. (1970). *Meaning and the Structure of Language.* University Chicago Press.

Erades, P. A. (1975). *Points to Modern English Syntax.*Swets & Zeitlinger B. V.

Gruber, J. S. (1976). *Lexical Structures in Syntax and Semantics.* North-Holland.

英語教育

青谷正妥(2012)『英語学習論:スピーキングと総合力』朝倉書店

綾部保志, 小川亘, 榎本剛志(2009)『言語人類学から見た英語教育』ひつじ書房

池内正幸(2018)『英語学を英語授業に活かす 市河章の精神を受け継いで』開拓社

内田洋子, 杉本淳子(2020)『英語教師のための音声指導 Q&A』研究社

有働眞理子, 谷明信(2018)『英語音声教育実践と音声学・音韻論 効果的で豊かな発音の学びを目指して』(国立大学法人兵庫教育大学教育実践叢書)ジアース教育新社

小菅敦子, 手島良, 河村和也, 若有保彦(2016)『英語は「教わったように教えるな」』研究社

坂本光代(2017)『応用言語学から英語教育へ 上智大学英語教授法 TESOL コースの過去・現在・未来』Sophia University Press 上智大学出版

外山敏雄(2015)『日本の英語教育を彩った人たち』大修館書店

高橋勝忠(2011)『英語学基礎講義 英語学ってどんな学問?』現代図書

高橋勝忠(2017)『英語学を学ぼう 英語学の知見を英語学習に活かす』(開拓社 言語・文化選書)開拓社

高梨庸雄(2011)『新・英語教育学概論 改訂版』金星堂

大学英語教育学会, 浅川和也, 田地野彰, 小田眞幸(2020)『英語授業学の最前線(JACET 応用言語学シリーズ)』ひつじ書房

江利川春雄(2008)『日本人は英語をどう学んできたか:英語教育の社会文化史』

鳥飼玖美子(2014)『英語教育論争から考える』みすず書房

鳥飼玖美子(2020)『10 代と語る英語教育:民間試験導入延期までの道のり』筑摩書房

鳥飼玖美子，大津由紀雄，江利川春雄，斎藤兆史(2017)『英語だけの外国語教育は失敗する：複言語主義のすすめ座談会』ひつじ書房
鳥飼玖美子，鈴木希明，綾部保志，榎本剛志(2021)『よくわかる英語教育学』（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）ミネルヴァ書房
中田達也，鈴木祐一(編)(2022)『英語学習の科学』研究社
中村捷(2018)『発話型英文法の教え方・学び方』開拓社
長尾純，宗宮喜代子，伊佐地恒久(2021)『英語教師がおさえておきたい音声・文法の基本 現代英語学入門』くろしお出版
西原哲雄(2018)『英語教育と言語教育』（朝倉日英対照言語学シリーズ発展編 4）朝倉書店
藤田耕司，松本マスミ，児玉一宏，谷口一美(2012)『最新言語理論を英語教育に活用する』開拓社
三浦孝，亘理陽一，山本孝次，柳田綾(編著)(2016)『高校英語授業を知的にしたい：内容理解・表面的会話中心の授業を超えて』研究社
安井稔(1973)『英語教育の中の英語学』大修館
立教学院英語教育研究会(編)(2012)『英語の一貫教育へ向けて』東信堂
亘理陽一，草薙邦広，寺沢拓敬，浦野研，工藤洋路，酒井英樹(2021)『英語教育のエビデンス：これからの英語教育研究のために』研究社
Celce-Murcia, M., & D. L. Freeman. (1983). *The Grammar Book: an ESL/EFL Teacher's Course.* Boston: Heinle & Heinle.

一般書

安西徹雄(2000)『英語の発想：翻訳の現場から』ちくま学芸文庫
—実際の翻訳現場を視座に置き、日本語と対照的な発想をする英語特有の論理について分析した本。
池上嘉彦(1984)『記号論への招待』岩波書店
石黒マリーローズ(2004)『聖書でわかる英語表現』岩波書店
井上逸兵(2021)『英語の思考法』筑摩書房
今井むつみ(2020)『英語独習法』岩波書店
唐須教光(2007)『英語と文化-英語学エッセイ』慶應義塾大学出版
酒井邦嘉(2002)『言語の脳科学-脳はどのようにしてことばを生み出すか』中公新書
酒井邦嘉(2019)『チョムスキーと言語脳科学』集英社
里中哲彦(2013)『英文法の楽園』中央公論新社
里中哲彦(2019)『日本人のための英語学習法』筑摩書房
鈴木孝夫(1996)『教養としての言語学』岩波書店
鈴木孝夫(1973)『ことばと文化』岩波書店
鈴木孝夫(1990)『日本語と外国語』岩波書店
鈴木孝夫(1999)『日本人はなぜ英語ができないか』岩波書店

鈴木孝夫(2011)『あなたは英語で戦えますか：国際英語とは自分自身である』富士房インターナショナル
高橋英光(2010)『言葉のしくみ：認知言語学の話』北海道大学出版
竹蓋幸生，水光雅則(編)(2005)『これからの大学英語教育』東京：岩波書店
田中克彦(1993)『言語学とは何か』岩波書店
田中克彦(2009)『ことばとは何か-言語学と言う冒険』講談社
田中克彦(2000)『チョムスキー』岩波書店
千野栄一(1986)『外国語上達法』岩波新書
寺澤盾(2008)『英語の歴史-過去から未来への物語』中央公論新社
寺澤盾(2016)『英単語の世界』中公新書
鳥飼玖美子(2011)『国際共通語としての英語』講談社現代新書
鳥飼玖美子(2016)『本物の英語力』講談社
鳥飼玖美子(2017)『話すための英語力』講談社
鳥飼玖美子(2018)『子どもの英語にどう向き合うか』NHK 出版
鳥飼玖美子(2018)『英語教育の危機』筑摩書房
鳥飼玖美子(2019)『ことばの教育を問いなおす：国語・英語の現在と未来』筑摩書房
鳥飼玖美子(2020)『迷える英語好きたちへ』集英社インターナショナル
西村義樹，野矢茂樹(2013)『言語学の教室：哲学者と学ぶ認知言語学』中公新書
バトラー後藤裕子(2015)『英語学習は早いほど良いのか』岩波書店
広瀬友紀(2022)『子どもに学ぶ言葉の認知科学』ちくま新書
町田健(2006)『チョムスキー入門：生成文法の謎を解く』光文社
山田雄一郎(2005)『日本の英語教育』岩波書店

文化

浅田嘉男(2015)『カナダの暮らしと言語-カナダ英語の背景』朝日出版社
太田朗(1959)『米語音素論』研究社
小川直樹(2020)『イギリス英語で音読したい！：UK 音読パーフェクトガイド』
—マザーグースや不思議の国のアリス、ピーターラビット、シャーロックホームズなど多様な素材でイギリス英語の音をあらゆる観点から解説した本。
柏野健次(2006)『英語学者が選んだアメリカ口語表現』
—学校で習う定番表現から、英語学習者にあまり知られていない表現まで、様々な慣用表現を適切な場面で使えるよう解説した本。
唐澤一友(2008)『多民族の国イギリス：4 つの切り口から英語史を知る』春風社
—イギリスを構成する 4 つの国について、ユニオンジャックの成り立ちなど、文化・歴史的な内容やアングロサクソン語としての英語史についての解説を網羅した本。
高橋作太郎(1979)『アメリカ精神の英語』ちくま書房
—ボブ・グリーン・ハックルベリー・リンカーン演説や独立宣言など、アメリカにおい

て生まれた多くの名文の紹介や文法解説したもの。
津田塾大学英語英文学科(編)(2021)『アメリカ英語の発音教本 4 訂版』研究社
中谷美佐(2004)『ナマった英語のリスニング』東京：ジャパンタイムズ
野村恵造(2013)『ジョンブルとアンクルサム：イギリス英語とアメリカ英語』研究社
—イギリス英語とアメリカ英語それぞれの特徴や文化的背景を紹介・解説する。前者についてはコクニーや紳士貴族・女王陛下の言葉を、後者についてはなまりやイギリス英語との対立について扱っている。
堀田隆一(2016)「英語の米英差の起源と発達：color/colour 問題再訪」『藝文研究』119(1):50-63
ポール・カーリー，インガ・M・メイス，ビバリー・コリンズ(2021)『イギリス英語音声学』大修館書店
—音声学・英語音声学の基本概念からイギリス英語ならではの発音や弱形について解説をした本。
藤井健三(2004)『アメリカ英語とアイリシズム：19～20 世紀アメリカ文学の英語』中央大学出版部
—マーク・トウェインやウイリアム・フォークナーなどによる有名な文学作品の分析を通して、アメリカ英語の統語法と発音がアイルランド英語から受けた影響について検証したもの。
藤井健三(2006)『アメリカの英語：語法と発音』南雲社
—小説・映画・戯曲などの作品から用例を多数引用し、アイルランド英語とのかかわりを念頭に置きつつアメリカ英語の語法と発音の諸問題について分析した本。
山口美知代(2009)『英語の改良を夢見たイギリス人たち』開拓社
—特に 19～20 世紀におけるつづり字改革論者たちの試みについて、教育行政文書や帝国教育会議議事録などとともに概観する。
Algeo, J. (2006). *British or American English?: A Handbook of Word and Grammar Patterns.* Cambridge University Press.
Allen, R. L. (1966). *The Verb System of Present-day American English*. Mouton
Atwood, E, B. (1953). *A Survey of Verb Forms in the Eastern United States.* University of Michigan Press, Ann Arbor.
Bailey, G., & M, Bassett. (1986). *Language Variety in the South: Perspectives in Black and White.* The University of Alabama Press.
Barron, A. & K, P, Schneider (eds). (2005). *The Pragmatics of Irish English.* Berlin and New York: De Gruyter Mouton.
Jenkins, J. (2007). *English as a Lingua Franca: Attitude and Identity.* Oxford University Press.
Jenkins, J. (2009). *World Englishes: A Resource Book for Students, 2nd ed.* New York: Routledge.

Wierzbicka, A. (2006). *English: Meaning and Culture.* New York: Oxford University Press.

辞典

石橋幸太郎(編) (1973)『現代英語学辞典』成美堂
大塚高信，中島文雄(監修)(1982)『新英語学辞典』研究社
小川芳男(編)(1960)『ハンディ語源英和辞典』有精社
柏野健次(2010)『英語語法レファレンス』三省堂
小西友七(編)(1980)『英語基本動詞辞典』研究社
小西友七(編)(1989)『英語基本形容詞・副詞辞典』研究社
佐々木達，木原研三(編)(1995)『英語学人名辞典』研究社
田島松二(編)(1998)『わが国における英語学研究文献書誌：1990-1996』南雲堂
寺澤芳雄(編)(1997)『英語語源辞典』
寺澤芳雄(編)(1997)『英語史・歴史英語学：文献解題書誌と文献目録書誌』研究社
寺澤芳雄(編)(2002)『英語学要語辞典』研究社
寺澤芳雄，川崎潔(編)(1993)『英語史総合年表：英語史・英語学史・英米文学史・外面史』
中島平三(2001)『英語構文辞典』大修館書店
中野弘三，服部義弘，小野隆啓，西原哲雄(2015)『最新英語学・言語学用語辞典』開拓社
樋口昌幸(2012)『英語辞典活用ガイド』(開拓社 言語・文化選書 35) 開拓社
松浪有，池上嘉彦，今井邦彦(編)(1983)『大修館英語学辞典』
八木克正(2006)『英和辞典の研究』
Cambridge Advanced Learner's Dictionary. 3rd ed. (2008) CUP
Chambers Essential English Dictionary. (1998). Chambers.
Chambers University Learners' Dictionary. (1980). Chambers.
Collins COBUILD English Language Dictionary. (1987). Collins.
Idiomatic and Syntactic English Dictionary. (1942). Kaitakusha.
Longman Advanced American Dictionary, 5th ed. (2009). Pearson Education.
Longman Dictionary of Contemporary English. (1978). Longman.
Macmillan English Dictionary for Advanced Learners. 2nd ed. (2007). Macmillan.
Merriam-Webster's Advanced Learner's English Dictionary. (2008). Merriam-Webster Inc.
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. 8th ed. (2010). OUP.
Oxford Elementary Learner's Dictionary of English. (1981). OUP.
Oxford English Dictionary. 2nd ed. (1989). OUP.
Oxford Student's Dictionary of Current English. 2nd ed. (1988). OUP.
Smith, W. W. (2005). *Speak Better English.* Eihosha, Tokyo.
The Concise Oxford Dictionary of Current English, 9th ed. (1995). OUP
The Holt Intermediate Dictionary of American English. (1966). Holt.

The Oxford English Dictionary. (1928). Oxford University Press.
The Penguin English Student's Dictionary. (1991). Penguin Books.
The Random House Dictionary of the English Language. (1971). Random House Inc.
Webster's Third New International Dictionary of the English Language. (1961). Merriam

英語学一般

安藤貞雄, 林哲郎(1988)『英語学の歴史』英潮社
安藤貞雄(1996)『英語学の視点』（開拓社叢書 3）開拓社
家口美智子(2017) *Existential Sentences from the Diachronic and Synchronic Perspectives.* 開拓社
井上亜依, 神崎高明(2012)『21 世紀英語研究の諸相』開拓社
井上逸兵(2015)『グローバルコミュニケーションのための英語学概論』慶應義塾大学出版会
大須賀節夫(2010)『言語と知能-言語はどのようにして創られたか？』オーム社
岡崎正男(2014)『英語の構造からみる英詩のすがた』（開拓社 言語・文化選書 44）開拓社
金谷良夫(1993)『コミュニケーションのための英語・再入門』中央経済社
柏野健次(2012)『英語語法詳解 英語語法学の確立へ向けて』三省堂
菊池清明(2016)『英語学：現代英語をより深く知るために 世界共通語の諸相と未来』春風社
久保田正人(2013)『英語学点描』開拓社
斎藤兆史(2017)『英語の作法』東京大学出版会
島村礼子(1990)『英語の語形成とその生産性』リーベル出版
高橋勝忠(2017)『英語学を学ぼう』（開拓社 言語・文化選書 69）開拓社
高見健一(1995)『機能的構文論による日英語比較』(日英語対照研究シリーズ 4)くろしお出版
多々良直弘(2022)『実例で学ぶ英語学入門 異文化コミュニケーションのための日英対照研究』朝倉書店
坪本篤朗, 早瀬尚子, 和田尚明(2009)『「内」と「外」の言語学』開拓社
中島平三(2011)『ファンダメンタル英語学 改訂版』ひつじ書房
中島平三(2011)『ファンダメンタル英語学演習』ひつじ書房
西垣内泰介, 石居康男(2003)『英語から日本語を見る』研究社
西原哲夫(編)(2018)『言語の構造と分析-統語論, 音声学・音韻論, 形態論』開拓社
—統語論に関して、基礎・応用の 2 章に分かれそれぞれミニマリストプログラムやカートグラフィーの枠組みに沿って個別の言語現象を分析し、また音については音声習得や音律音韻論などを取り上げている。その他形態論やレキシコンなども取り上げている。
萩野隆聡, 松野あかね, 赤石恵一, 大場井織(編)(2013)『英語学・英文学の理論と応用』東京：御茶の水書房
—英語教育学の章では札幌農学校での実際の活動や MI 理論を紹介し、英語学では連語と類義語、英米文学では神話や名作の分析を取り上げる。
長谷川瑞穂(2014)『はじめての英語学 改訂版』研究社

畠山雄二(2014)『ことばの本質に迫る理論言語学』くろしお出版
—生成文法や認知言語学など、主要な理論的枠組みをそれぞれ取り上げ、その中における様々な問題を紹介・解説した本。
原口庄輔(2004)『レキシコンを考える』開拓社
平賀正子(2016)『ベーシック新しい英語学概論』ひつじ書房
ヘムルート・グノイス(2003)『英語学史を学ぶ人のために』世界思想社
八木克正(1987)『新しい語法研究』山口書店
安井京子(2002)『音読して楽しむ名作英文』はまの出版
安井稔(1960)『英語学研究』研究社
安井稔(1963)『構造言語学の輪郭』大修館
安井稔(1974)『英語学の世界』大修館
安井稔(1987)『英語学概論』(現代の英語学シリーズ 1)開拓社
安井稔(2001)『英語学を考える』開拓社
安井稔(2004)『仕事場の英語学』開拓社
安井稔(2008)『英語学の見える風景』開拓社
—学部 2 年生を対象に行われた講演を基に、英語学ではどんな問題を扱っているかということを説明している。その他英文法における諸現象についての解説も掲載されている。
安井稔(2014)『英語とはどんな言語か』(開拓社 言語・文化選書 43)開拓社
安井稔, 久保田正人(2017)『英語クラスターハンドブック』
吉田一彦(1986)『現代英語の表情』研究社
米倉綽(2018)『英語学が語るもの 英語学を楽しむ 12 のエッセンス』くろしお出版
—大母音推移や古英語、中英語における複合語の比較、Be 動詞の文法化の問題や I know, I mean の使用傾向など、様々な切り口から英語学について出来るだけ平易に概観したもの。
龍城正明(2016)『英語学パースペクティヴ 英語をよりよく理解するための 15 章』南雲堂
Aijmer, K. *Conversational Routines in English: Convention and Creativity.* Harlow, Longman.
Bolinger, D. (1972). *Degree Words.* Mouton.
—形容詞・名詞・動詞と強意語の修飾関係や、それぞれの品詞における程度を表す語について解説をした本。
Bolinger, D. (1972). *That's That.* Mouton, The Hague.
—that 節に焦点を当て、形容詞節・名詞節やその曖昧性、意味的側面について解説したもの。
Bolinger, D. (1977). *Meaning and Form.* Longman.
Bolinger, D. L. (1975). *Aspects of Language.* Harcourt.
Borkin, Ann. (1984). *Problems in Form and Function.* Ablex Publishing Corporation.

Carlson, Gregory, N. (1977). *Reference to kinds in English.* Ph. D University of Massachusetts, Amherst.

Close, R. A. (1962) *English as a Foreign Language.* George Allen& Unwin.

McKenzie, W. E, & M. Tenma. (1965). *English Expression: Oral and Written.* Kenkyusha.

Milsark, Gary, L. (1974). *Existential sentences in English.* Dissertation, MIT.

Milward, P. (1972). *English-Right and Wrong.* Kenkyusha.